



目次

地域貢献 / 工作教室・セミナー	… 2	情報発信 / 受賞・外部資金獲得	… 7
教材開発	… 5	2023年度の今後の予定	… 8
人材育成・匠サロン活動	… 6	若手会CYTの活動紹介	… 付

2023年 4月 ~ 12月の活動

05/27	メイカーズクラブ総会(オンライン)	09/16	シングルマザーハウス「with」小学生工作教室/宝塚市
07/09	MC祭工作サポーター養成セミナー	10/07	はなみずき工作教室/大阪市
07/26	女子小学生向け工作教室/吹田市	11/23	幼・小学生向けモーター工作教室/寝屋川市
07/30	ドーンとMC夏祭り/大阪市	11/25	社会人向けキャリアセミナー&紙飛行機工作セッション 「面白い!楽しい!理工系の学び」/東大阪市
08/05	父親と子どものための工作教室/池田市	12/02	【匠サロン】キャリア勉強会「25歳の自主退職体験と組織論」
08/27	【匠サロン】働く価値観「はたかち」WS	12/28,29	幼~社会人対象電気回路楽器工作教室(交野市)
09/11	大同生命厚生財団助成金授与式		

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈いします。

2023年のメイカーズクラブは、「夢をカタチにするところ」という言葉に導かれる年でした。一歩ずつ前進し、新たな出会いが新しい世界を切り開き、実践から新たな気づき生まれ、それが理念を深め、理念と実践を一層磨き上げました。そのような感覚がありました。関係する人々の力が結集し、立場を超えて繋がり、企画者も参加者も一体となり、「ものづくりの場」を共に創り上げました。

今年も、元気に楽しく駆け抜けたと思います。引き続き、ご指導とご支援をお願いいたします。(代表・中谷敬子)



活動の中で見えつつある、「若年層のための『個人と組織の共生論』」

「個人と組織の共生」は、私が社会人となった日からのテーマです。メイカーズクラブが、理工系技術者のキャリア発達支援のために「個人が納得して判断し、決断できるための相互成長の場づくり・仲間づくり」を志すのも、4人の息子の子育てと専門家としての仕事の納得できる両立を目指す中で、自身の能力の限界を感じて苦しんだ経験を救ったそれらが、今の若者たちの役に立つと思うからです。

私は、学部卒業後、第一志望の大手造船メーカーの研究部門に就職しましたが、3年で自主退職しました。この時の私は、自分の提案やキャリアデザインが理解されない理由を、専門知識の不足と、偏屈な自分の個性が企業にそぐわないからだと思っていました。その後、私は、折々の機会と出会いに支えられ育てられ、今、理工系領域の若者たちとともに、彼らの未来を見つめ語り合える職業とNPOにたどり着きました。若年層の彼

らの「もっと成長したい、納得できる仕事がしたい。でもどうすればいいのか分からないし、この思いも分かってもらえない。」という語りは、かつての私と重なります。彼らはまだ自分の「何か」を言語化できていないけれど、それが確かに存在することは理解しています。だからこそ、彼らは葛藤します。

そんな彼らに並走してきた実践から、彼らが「彼らしい働き方」を実践しながら見つけるプロセスには、従来のキャリア支援だけでは足りないと、私たちは考えます。「彼ら自身が、『今と将来のプロとしての自分』を実装する対象である『組織』とは何なのか」を、彼らと共に学び、共通言語を持った上で、「納得感第一主義」の彼らがどのように組織の中で活躍したいのか、ありたいのかを語り合う支援が必要です。実業で実践を重ねてきた匠の居る「匠サロン」を持つメイカーズクラブは、皆さまと協力してこれに取り組んでいきます。(代表・中谷)

第2回 ドーンとMC夏祭り/モーターロボ工作

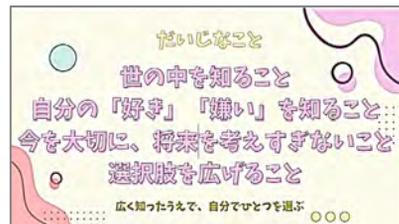
- 日時:7月30日(日) 場所:ドーンセンター(大阪市)
- 参加者:小学生4~中学生とその保護者18組43名
- 講師:中谷敬子(工作)、北条瑠奈(リケジョトーク)
- 工作サポート:(MC):石田 あずさ、赤野 孝一、赤野 清美、瀬口 郁子、大谷 弘、中西 守、永井 敏夫。(CYT)北条 瑠奈、中谷 允則、平子 真衣、石田 大輔。(応援)田中 夏希、寺戸 木染、田中 典子。(技術者サポーター)齊藤 幸代、溝口 葵、大原 香里、福井 天哉、坂田 由樹。



- 概要:小中学生とその親子を対象とした、有線リモコン操縦可能なプラカップモーターロボットの工作教室と、燃料電池メーカーで技術者として活躍する女性技術者のキャリアトークを行いました。「ものづくりが好き!」「理工系の進学や仕事、ライフプランはどんな感じなのかな」といった女性が少ない理工系の世界に触れてもらい、性別にかかわらず子どもひとりひとりが持つ可能性を伸ばせるよう、身近な大人といっしょにものづくりの楽しさ、学生生活や未来について理工系女子の先輩たちと楽しく過ごしました。

- 【工作教室:リモコン操縦可能なプラカップロボット】 工作教室では、リモコン操縦可能なプラカップロボットを組み立て、試走コースでロボット操縦を楽しみました。モーターや電気回路のしくみに触れながら、技術と創造力を養う機会を楽しみました。

- 【キャリアトーク:女性技術者のキャリアパス】 女性技術者のキャリアトークでは、燃料電池メーカーで活躍するCYTメンバーの一人である北条さんが自身の経験を共有し、15歳で高専を選び、技術者として今年から働き始めた現在進行形の日々と思いについて語りました。理工系分野での女性のキャリアデザインの形を具体的にイメージしてもらえる機会となりました。また、CYTの高専生・大学生、社会人からの、理工系の面白さのメッセージがビデオレターで提供されました。



キャリアトークのスライドの抜粋

- 共同主催:メイカーズクラブ、(一社)大阪府男女共同参画推進財団(ドーン財団)、ドーン事共体の共同主催※1
- 後援:日本女性技術者フォーラム(関西部会)

※1 (株)カクタス、(一財)大阪府男女共同参画推進財団、(一財)大阪府青少年活動振興財団から構成された組織

MC祭工作サポーター養成セミナー

- 日時:2023/07/09 場所:寝屋川市
 - 対象者:中学生2名(同伴保護者1名)
 - 工作サポーター候補者たちが工作のスキルと知識と交流コミュニケーション力を楽しく磨きました。
- ①キットを使用した工作体験 ②工作サポート時のポイントや交流に関するセミナー



中学生が作ったロボット

吹田市男女共同参画センター 科学に恋する夏休み工作教室

■ 主催：吹田市立男女共同参画センター・デュオ

■ 日時：7月26日(水)10:00～12:00

■ 参加人数：小学生とその保護者14組31名

■ 講師：中谷敬子、工作サポート：中谷亘佑(CYT)

■ 概要：夏休みに子供たちが科学に恋し、楽しみながら学ぶ、「できた！の笑顔」を照らすモーター灯籠づくりを開催しました。灯籠は「道に迷わないための灯」として、子供たちに自分の「好き」や好奇心を見失わず、未来を選択するコンパスになるようにとの願いを込めました。

● 1部：実験 ～キラクルモーター灯籠をつくろう～

モーターで回る灯籠を親子で協力して制作しました。

2つのプーリーを連動させ、ゆっくりと回る灯籠を実現しました。

● 2部：理工系の匠からのメッセージ ～「なぜ？」の心に答えます～

事前に集めた、子ども達からの「なぜ？」に対して、講師が理工系の専門家として答えるだけでなく、CYTメンバーがビデオメッセージで応えました。これにより、子供たちは科学に対する新たな興味を発見し、親子それぞれに、将来の可能性について考えるきっかけとなりました。



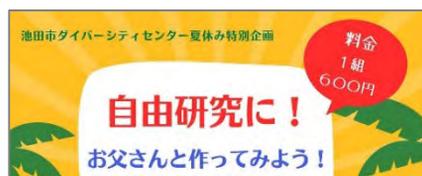
お父さんと作ってみよう！ドキドキブザー迷路(池田市)

■ 主催・場所：池田市立ダイバーシティセンター

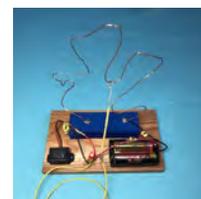
■ 日時：8月5日(土)14:00～16:00

■ 参加人数：小学4年生～6年生の子どもと父親

■ 講師：中谷敬子



■ 概要：子供たちとお父さん達が協力して、ドキドキブザー迷路を工作しました。木製の土台にドライバーを使って、木ネジで迷路を留めていく作業は、お父さんのサポート指導により、子供たちはみるみる上達していきました。子供たちは迷路のデザインに個性を反映させ、創造力を存分に発揮しました。作品が完成した後の披露の時間では、お父さんたちは一緒に取り組むことで気づいた子供たちの素晴らしいところを発表し、我が子がデザインした難易度の高い迷路に挑戦しました。コースの壁に当たるとブザーが鳴り、子供たちの得意げな笑顔が広がりました。



シングルマザーハウス「with」小学生工作教室

■ 【CYT主催】

■ 日時：9月16日(土)15:00～17:00

■ 場所：宝塚市 シングルマザーハウス「with」コミュニティールーム

■ 講師：中谷亘佑(CYT) ■ 参加人数：小中生親子3組6名

■ CYTメンバーの一人がボーイスカウト活動の一環として企画提案されたものを共催しました。教室の後も試行錯誤しやすい教材として紙コップと牛乳パックを使った工作としました。

■ 参加者の感想抜粋：「身近な紙コップを使って、配線は本格的な工作をできて楽しかったです。」「いつも家で1人で作業しているのでとても良い経験ができました。」「説明も分かりやすく、優しく教えてくれたので楽しかったです。自分が大きくなったら、そう言うことする人になりたいです。帰ってから、ロボットをアレンジしました。」

※本事業は、2023年度キャタピラジャパンSTEM賞奨励金を活用して実施されました。記して謝意を表します。



はなみずきセミナー特別編 親子で楽しむ！工作教室(大阪市)

- 主催:ドーン財団(一般財団法人大阪府男女共同参画推進財団)、NPO法人メイカーズクラブ 協力:ドーン事業共同体
- 日時:10月7日(土)14:00~16:00 @ドーンセンター(大阪市中央区)
- 参加者:シングルマザー、プレ・シングルマザーと子ども(小学生)
- 講師: (CYT)中谷亘佑
- 工作サポート:(CYT)北条 瑠奈、中谷 允則、(MC)中谷 敬子



■ 概要: ドーン財団のシングルマザーのためのはなみずきセミナーの特別編として、ものづくり体験を提供しました。親子が一緒に楽しみながら工作活動を通じて学び、楽しむひとときとなりました。参加者は身近な紙コップを使用したモーターロボット作りを楽しむだけでなく、独自の試走コースを作り、操縦を楽しみました。さらに、どうすれば早くなるかを、それぞれが試行錯誤し、とても早く調整できた参加者が、その工夫を皆に発表しました。



幼・小学生向け キラキラ★リトミック モーター工作教室(寝屋川市)

- 日時: 11/23(木・祝) 場所:寝屋川市寝屋川市立エスポアール
- 講師: 中谷敬子
- 工作サポーター:(CYT) 北条瑠奈、武山美奈、中谷亘佑。(協力)久本貴。
- 参加者:未就学児~小学3年生まで34名とその保護者



■ 概要 :厚紙製のブレードがモーターにより回転し、振動を生じさせることでコマがコース上を進む仕組みのダービーレースのような競争ゲームを作りました。子供たちは、足の角度や重さを変えることでスピードを調節し、自分のアイデアを活かして、回転ずしのように並べたりと様々な作品を作りました。そんな工夫名人やスピード競争優勝者の作品をテーブルを回って皆で鑑賞して、互いの創造力に刺激を受け合う充実した体験となりました。

社会人向けキャリアセミナー「面白い！楽しい！理工系の学び」(東大阪市)

- 【東大阪男女共同参画センター主催】
- 日時: 11/25(土)
- 場所:東大阪市立男女共同参画センター・イコラーム
- 講師:中谷敬子 ■ 参加者:10歳代から60歳代。12名

■ 概要:若者たちが性別に関係なく理工系分野でキャリアを重ねていくことを支援するために、知っておいてほしいことや、彼らの「納得感」という価値観や進路選択の悩みとの向き合い方について、現場での実践について、事例を交えながら紹介しました。理工系領域の女性研究者・実践者としてのライブイベントとキャリアイベントの飾らない真実の葛藤や挫折に触れつつもそれでも、楽しく、人生をかけていることに納得・満足している理系ライフについて語りました。後半の紙飛行機工作では、主翼、尾翼を取り外したり、変形させたりしながら、飛行機が飛ぶメカニズムを理解しつつ、ギネス記録再現を飛行機づくりを楽しみました。



今どき世代の育成=個性探究を支援。納得の後に一歩

<p>高橋 智隆 / ロボットクリエイター グランドキャニオン登頂「エボルト」 大学は文系(産業社会学部) 水形人形⇒動けばいいな⇒ロボット 自分の価値観に気づくプロセス ●就活案にもつくりが好きと気づく ⇒浪人して京大工学部</p>	<p>ステイブ・ジョブズ / apple 創設者 ●アメリカの起業家/実業家、工業デザイナー ●興味ない必修科目が嫌 ●半年で中退 ●中退後も興味ある科目を聴講 ●カリグラフィー(西洋書道)</p>	<p>辻中 克弥 / 漫画家(株) 商品開発本部 技術開発部ウェア開発課 クラフマン 大阪府立大学工業高等専門学校 機械工学科 学生時代から漫画 大学卒業後のエンジニア スピードスタート(10年) 漫画家 一人</p>
---	---	---

■ 育成の戦略: 語り合いを使って価値観の掘り起こし
 ● 好きの根っから、主体性の発動を支援⇒新境地・改革
 ● point 「誰も知らないことを一緒に探そうという徹底した伴走力」
 ● 掘り出して、一緒に見て、広げて、渡し返す。

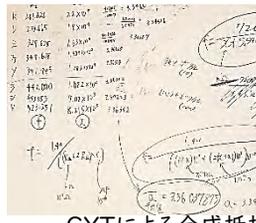
♪の森の音楽会 電気回路楽器工作教室(交野市)【CYT共催】

- 日時・場所: ①12/28(木) 10:00-12:00 東田町集会所、②12/29(金) 10:00-12:00 倉治いこいの郷
- 講師: 中谷敬子、
- 工作サポート: ① (CYT)藪 淑乃、伊丹 瑞稀。(協力)久本 達望、久本 貴。
② (CYT)伊丹瑞稀。(協力)久本 達望。



- 参加者: ①、②合計39名 (幼~社会人まで、33名の作成者と6名の保護者)
- 概要: ブレッドボードにジャンパー線。抵抗のカラーコードを確認して、実体線図を見ながら回路を組んでいく。難易度は高かったですが、全員完成しました。「聖者の行進」など教室終了後の動画提供が沢山ありました。現在サイトへアップ準備中です。工作教室の後の1時間ほどランチミーティングでは、高専での理工系ライフのリアルを語った彼女でした。保護者や社会人の中にも技術者おられて、会社での現場の話などをして下さって、CYTメンバーにとってもよい機会になりました。

実は、この教室には後日談があって、参加者の一人が、タクトスイッチを2つ同時に押すと音が変わることを発見して、5個しかならない音が増えたことから、沢山の挑戦動画が久本さんを介してメイカーズクラブに届きました。子ども達の一生懸命な様子が、これこそ、ものづくりで心を育てると一つの形だなと感じました。



調律	1	2	3	4	5	標準値
F(C)						261.63
G(D)						293.66
A(E)						329.63
B(F)						349.23
C(G)						392
D(A)						440
E(B)						493.88
F(C)						523.25
G(D)						587.32
A(E)						659.26
B(F)						698.46
C(G)						784
D(A)						880
E(B)						987.76
F(C)						1016.52
G(D)						1122.04

CYTによる合成抵抗の計算と5音拡張

※本事業は、2023年度キャタピラジャパンSTEM賞奨励金を活用して実施されました。記して謝意を表します。

教材開発

教材開発「2段プーリー・2重構造のモーター灯籠」

電気工作の技術と構造の原理を実践的に学ぶための学修を目的として回転灯籠の工作教材を開発しました。

- 設計の目的と特徴
- プーリーシステムの応用: モーターの軸が高速で回転するため、プーリーを使って適切な速度に調整し、灯籠の優雅な回転を実現しています。より優雅で緩やかな走馬灯が実現。
- 照明の工夫: 豆電球を使用することで、光の拡散とゆらぎのある投影を可能にしました。
- 二重構造の設計: 外側の構造は固定されており、内側の構造が回転することで美しい影のパターンを投影します。
- 試行錯誤のプロセス
- アイデア1 - メリーゴーランド方式: 速度が早すぎて灯籠の回転が乱暴になり、目的に合わず不適切でした。
- アイデア2 - 影絵方式: 灯籠風にはなったものの、外側の構造が内側の構造と共に回転するという問題勃発。
- 法隆寺五重塔の心柱をヒントに、外側の構造を固定しないことで、内側の構造と独立して回転しないことを実現。

【アイデア 1】 メリーゴーランド方式	【アイデア 2】 影絵方式		
	直接貼付け	二重構造で投影	二重構造かつ 投影円筒心柱方式
			【最終決定教材】



働く価値観を語り合う！『はたかちワークショップ』

- 主催・場所：MC匠サロン・CYT
- 日時：8月27日(土)、ハイブリッド
- 参加人数：7名。(CYT)北条 瑠奈、平子 真衣、石田 大輔、
中谷 允則、藪 淑乃、(匠サロン)石田あずさ、中谷敬子
- 講師：中谷敬子(はたかちセミナー講師有資格者)



- 概要：働くことと価値観について深く考える機会を提供しました。参加者はカードを使いながら、自身の大切な価値観や職業に対する考えを探り、共有しました。異なるバックグラウンドや価値観を持つ参加者たちが集まり、共感や新たな気づきを得る場として活用しました。

■【匠サロンからの女性技術者との意見交換】

CYTの一人である学生から「社会に出て責任を果たせるか不安だ」という言葉を受けて、MCの匠サロンから招待した女性技術者であり管理職でもある石田さんが、企業の現場で起こること、管理職として部署や部下を支える体験を交えた話題を提供下さいました。これを受けて、参加者全体が「責任」に対する考え方について語り合いました。特に注目すべきは、責任に関する異なる考え方や行動が浮上しましたが、いずれの場合も参加者が「無責任でありたくない」という思いからくるものである子音でした。参加者皆が責任の重要性について共感し、それを実現する方法について熱心に語り合い、これが、WSにより深い意味を持たせました。働くことと価値観について深く考える機会を提供し、参加者全員が新たな気づきを得ることができました。異なるバックグラウンドを持つ参加者が集まり、価値観や職業についての理解を深める機会の意義を感じました。

※本事業は、令和4年度キャタピラジャパンSTEM賞奨励金を活用して実施されました。記して謝意を表します。

【関連資料 「はたかちワークの目的である自己理解をする目的は何か？」(抜粋)】

(前略) さて、今回扱う「内的キャリア」は、「自分らしく生きるために、自分が大切にしている価値観を自分の言葉で語り、それを大切にしたい実践ができるようになる」ことを目的としている。私が「はたかちカード」に出会ったのは、少しトウの立った迷える子羊であった2011年、6、10、12、14歳の息子たちの育児と自己実現のための仕事の両立に苦しんでいた時期であった。もともと、初職を3年で辞めて大学院へ飛び込んだ私は「組織と個人の共生」ということを理解する心も体験もなかった(と当時は考えていた)。それは40歳を超えてもなお同じだった。今思えば、自己実現のために組織に所属していることが必要であったのに、その組織への反感をエネルギーとしている点で、ある意味既に破綻している状態であったと思う。そんな時に、私は「はたかちカード」に出会った。そして、その時から、「自分の大切にしたいもの」すなわち「自分らしさ」を発信し、同じように悩んでいる友とともに語り、成長し合う旅が始まったのだと思う。そして、10年以上が経ち、そこから始まった動きが、自分の「はたかち(内的キャリア)」を社会実装する動きにつながっている。そしてその最初の活動が、長らく、「なぜ分かってくれないのだ？」と怒りのエネルギーの源としてきた「組織づくり」という事実をそのまま、まだ、書きにくいというわけである。

「はたかち(内的キャリア)」のほとぼりから「組織づくり(外的キャリア)」をせずにいられない。自己矛盾に近い気持ちを抱えながら、取り組んで半年が経とうとしている。そのプロセスで、私は初めて「組織」について学び『始めた』。途上である。しかし、「はたかち」については一定程度理解している私は今、理解している。これを読む人たちの中には、2011年当時の私もいるだろう。その人たちが「できっこない」という心の悲鳴が聞こえる。でも敢えて書く。同じ苦しみを体験したのだからこそ書きたい、知ってほしい。「はたかち」と「個人と組織の共生」は二人三脚だ。今の時代の組織は個人と共生するための準備をしなければ生き残れない。私たちの力で変革することができると思う。そのための戦略地図(戦うわけじゃないけど、まあ、そういう感じの覚悟は必要かもしれない。)が、「はたかち」だと思う。(後略)

— 2022.6 中谷敬子

【匠サロン・CYT】キャリア勉強会「25歳の自主退職体験と組織論」



- 日時:12月2日(土)
- 場所:オンライン
- 講師:中谷敬子、参加者: CYT
- 概要: 組織論では、企業は継続的に社会貢献できる存在となる目的で、**市場**の動向を観察し、求められる切り口で**自社**の強みを活かした製品を社会実装していきます。これは、**市場を組織に、企業を個人**と置き換えれば、「**個人と組織の共生**」の達成のためのヒントを与えてくれます。この視点から、講師が初職を3年で退職するに至るプロセスを振り返りながら、そこで起こったことについて、30年近くキャリアを重ね、同時に、研究者として実践者として、理工系領域でライフキャリアを探求している視点から再解釈し、解説することを試みました。ここでの議論を、理工系領域の社会人となっているCYTメンバーと語ることで、双方に、新しい視点が生まれ、キャリアデザインの理解の深まりが実現しました。

【事例】25歳で自主退職した、自分の過去の振り返り

□ 第一志望企業の希望通りの職種に就いた私が、「なぜ、3年で自主退職を選んだのか?」を検証する
就職先(大手造船メーカー)の当時の状況

- 1988~1995年、経営再建のため銀行から社長が派遣されていた。
● 改革と変革=廃棄物処理施設など**環境事業**に注力。飲料事業にも乗り出し、大ヒット商品

初職時代の私

- 1990年4月~1993年3月 同社 技術本部技術研究所 研究員
- キャリアデザイン、将来設計、無し。
- 部活と大学と学会以外知らないまま社会へ。
- 「研究がしたい」だけ。→目的は、「**個人**」のキャリア発達
- 組織で働く上での目的意識が致命的にずれていた。

● 納得感を感じる十分な説明が提供されなかった(または、私はその説明を理解する能力を欠いていた)。

→「**個人の成長 vs. 組織に服従の構図**」と、当時の私は理解。 ←誤解。服従でも対立関係でもない。

● 3年で自主退職 →現代の若年層の動きに似ている。



23

【振り返っての、より良い対応策】

まず、聴いてみる。語り合い、軸を見つけ、視野を広げて、問い返す。

■ 企業(社会を見据えて…)

- 経営理念=存在意義・目的
 - 意義
 - モチベーション
 - 意思決定基準
 - コミュニケーションのベース・文化
 - 価値観・行動規範
- ビジョン=将来像・目標
- 経営戦略=目標達成の手段

自分と社会の関係?

● 今のあなたは?と問いかける	
自分のこと	考えていない
社会のこと	興味を持っている
自分のこと	したいことは見ている
社会のこと	考えていない(調べていない)



人間も企業も同じ。
俯瞰的な視点、異なる視点の提供⇒新しい選択肢

24

情報発信 / 受賞・外部資金獲得

NPO代表、令和5年度大阪府知事賞受賞(男女共同参画・青少年関係部門)

令和5年度「憲法記念日知事表彰(男女共同参画・青少年関係)部門」を受賞しました。男女共同参画の推進や女性の地位向上に貢献し、顕著な功績を収めたことが認められてのことです。2023年5月8日、大阪国際会議場で憲法施行記念式並びに表彰式が行われました。大阪公立大学大学院 情報学研究科 真嶋 由貴恵教授(特命副学長・女性研究者支援室長)も同部門で同時受賞です。全部門の被表彰者数は個人373名、団体8団体。



<http://www.pref-osaka.lg.jp/hod/odp/attach/hod>
00-47567_4.pdf
被表彰者名簿

■ 所管機関:大阪府

■ 日時:2023年5月3日

「**憲法記念日知事表彰**」とは 大阪府では、5月3日の憲法記念日に合わせ、府政の振興に顕著な功績のあった個人若しくは団体又は、篤行が特にすぐれ、府民の模範となる個人を善行者、産業功労者、公共関係功労者として知事から表彰する。

私は、理工系領域の女性研究者・教育者であり、同時に4人の息子の母でもあります。これまで、自分らしく生きるために大切に思うことを実践するため、目の前にある課題の小さなピースを一つ一つ解決することに努めてきました。初職から3つめの職場となった高専での教職員と若者たちとの出会いは、研究活動に偏りがちであった私の男女共同参画社会の課題意識に大きな気づきを与えました。特に、高専女子学生有志チームROSEとの語り合いと活動は私自身をも育てました。そして、多彩な絆で広がる仲間と共に「ものづくり体験を通じて、世代を超えて誰もが自分らしく生きる力を育てる場」を社会での現実生活に求め、そのことがNPO法人の創設につながりました。出会いと気づきに端を発し、共にそれぞれの思いのピースを持ち寄った語り合いを通じて広がった人的ネットワークに支えられ育てられた取り組みの受賞は、仲間たちの一人ひとりの存在のおかげです。誇りに思うと同時に感謝します。今後も、受賞に相応しい活動となるよう仲間と共に一層努力を続けます。引き続き、ご指導ご支援をどうぞよろしくお願い致します。(中谷敬子)

メイカーズクラブ「匠サロン」、大同生命厚生財団助成金 獲得



「ものづくりの「知識・技術・マインド」で次世代の夢を応援する」というテーマのもと、匠サロンのボランティア活動のための助成金を申請し、無事に獲得しました。この助成金を活用し、匠サロンの匠たちは次世代の若手たちに対するキャリアデザイン支援を提供します。



被表彰者名簿→

- 大同生命厚生財団 助成内容: ボランティア活動助成「シニア部門」(応募件数147件、助成件数83件)
- 助成活動テーマ「ものづくりの「知識・技術・マインド」で次世代の夢を応援する」
- 助成期間: 2023年9月1日～2024年8月31日

■ 活動の概要: 匠サロンのメンバーである経験豊富な専門家たちが、次世代の若手に実務経験やキャリアに関する知見を共有し、キャリアデザインの支援をボランティアとして提供します。助成金の支援を受けて、彼らは次世代の若手をサポートし、ものづくり分野の将来を担う人材を育てることに貢献します。

高度経済成長時代と現代のデジタル新技術時代の若年層技術者のキャリア発達環境の共通点

2023. 中谷敬子

- 未知なる技術=経験や知識が限られる状況での挑戦と試行錯誤
 - 知識や経験が不足していることは前提条件 + 試行錯誤することは必然
- 自主学习と自己啓発=先行実績が少なく指導が得られにくい中で独自の取り組み
 - 成長と知識の深化の方策すら自己開拓
- 試行錯誤とイノベーション=新技術を理解し、革新的なソリューションを創造
- チームワークと協力=仲間との協力と連携が成功の鍵
 - 異なる場所で新技術に挑戦する仲間とのネットワークが重要
- 変革への適応力=急速な変化と技術進歩に柔軟に対応できる力
 - 環境の変化は当然 + 変革を受け入れて応えていくメンタルとマインド

現代のデジタル新技術時代の若年層のキャリア課題に応えることができるのは、高度経済成長時代を同世代として生きた匠の実業実践プロセス

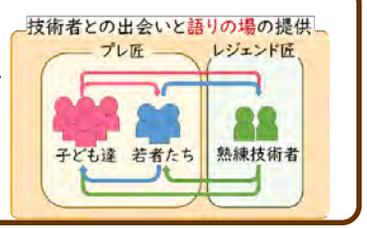
《メイカーズクラブでの匠の定義》

匠とは、

人生に必要な『**智恵**』を、自分の専門を例にとりながら語ることを通じて、聴き手が自ら成長する力を育てることができる人です。

ものづくりが好きで、その技術を究め続けている人、匠に年齢の縛りはありません。

その心を持つ年齢相応の「技術の匠」は、子ども達、若者達の中にも存在します。



「匠サロン夢へのバトンLive！」



～技術者からグローバル・コミュニケーターへのキャリアチェンジ～

- (NPO法人メイカーズクラブ「匠サロン」、若手の会「CYT」共催)
- 日時: 12月2日(土) @新大阪・対面+オンラインのハイブリッド形式
- 講師: 田代 真一郎氏、参加者: CYT
- テーマ: 「夢への一步: プロフェッショナルへの道」

かつて重工業メーカーの技術者であり、定年後に同時通訳者になった著者が、高校生や若手社会人に向けてキャリアを通じて得た「知識・技術・心構え」を共有するトークイベントです。著者は、技術者としての経験がグローバルな舞台での成功につながったことを話し、参加者に自らのキャリアを積極的に築くためのヒントを提供しました。

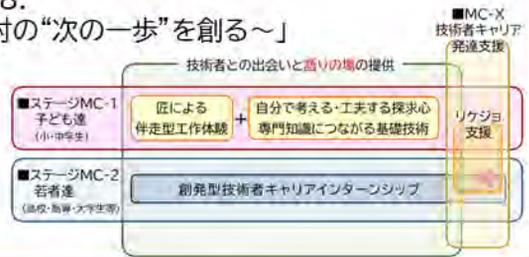


2023年度の今後の事業の予定(2024.1時点で決定のもののみ)

- 大阪府内市町村行政職員向け研修講師 中谷 敬子 @2024.2.8.
「理工系分野における女性人材の育成を推進するために～市町村の“次の一步”を創る～」



←最新情報をLINEで配信中です。
以下のリンクから公式アカウントを友だち追加できます。
NPO法人 メイカーズクラブ 公式LINE
(<https://lin.ee/AvOQG2i>)



社員 理事: 中谷 敬子(代表)、(副代表)、赤野 孝一、中田 裕一 / 監事: 久本 和美、毛利 勝一 / 大谷 弘、杉山 吉彦、瀬口 郁子、広瀬 正、時井 真紀 / 事務局: 中西 守、永井 敏夫

賛助会員 中西電機工業(株)、NPO法人「あなたらしくをサポート」 お問合せ support@makersclub.jp

活動依頼、入会希望をはじめ、ご意見、お問合せをお待ちしています。 info@makersclub.jp へお願いします。

若手の会 CYTの定例活動紹介

活動紹介

主な活動は、チーム内の定例交流会、小中学生への出前ものづくり実習です。定例交流会では、それぞれのメンバーの知りたいこと、したいことを提案・企画して、チーム一緒に経験します。

試行錯誤にはなりますが、自分たちらしく、自分たち自身の未来のものづくりのために活動することをめざします。

本チームは、NPO法人メイカーズクラブの支援を受けて活動しています。



新しいメンバーを1名迎えて、技術者と大学生、高専生、高校生という多様なチームは健在です。STEM賞受賞で獲得した奨励金を活用して、子ども達のための工作教室だけでなく、自分たちのキャリアデザインのための学びや語り合いを、計画的に、主体的に活動を進めています。

定例活動

6月 近況報告会(北条)

メンバーの近況、CYTの運営方針について話し合い、月例集会の導入を決めました。月に一度勉強や交流を目的とした集会を行う事。毎月の企画は、担当メンバーが企画することとしました。



7月 ドーンとMC祭に工作サポーターとして参加

7月30日、メイカーズクラブの工作教室に工作サポーターとして参加。技術者トークセッションに、CYTメンバー北条瑠奈さんが参加しました。15歳で高専進路を決めてから、今年から女性技術者として働く今、これまでとこれからについて話しました。CYTは他にも、撮影・記録を担当し、メンバーから参加者に向けたメイカーメッセージ動画を作って提供しました。

8月 働く価値観をみつめる「はたかちWS」(藪)

【匠サロン・中谷敬子、石田あずさ】

「はたかち」とは、働く価値観のことです。このWSは「はたかちカード」を用いて、自分の中の大切にしたい価値を探求し、グループワークによってさらにそれを深めるという内容です。オンライン参加者を含め、学生から社会人まで7人が参加しました。WSは当初の予定より時間を拡張し、2時間半に及んで意見の交流を楽しみました。



9月 工作教室の教材開発とその準備(中谷ま)

【匠サロン・瀬口郁子、毛利勝一】

以前行った工作教室の教材開発の過程について、フィードバックやもっと改善できる点などを話し合いました。教材開発は一筋縄ではいかず、試行錯誤の上によくの学びが得られます。これをぜひ子ども達にも体験してほしいという意見があり、新たな企画を考えるきっかけとなりました。また、今回の工作教材は「モーターとプーリーを使った灯籠」で、匠サロンのお二人から、灯籠自体の伝統文化についても伝えていくことが大切だというコメントを頂きました。若者世代に無い発想で、改めて世代間交流の大切さを実感しました。



10月【ものづくり出前実習】紙コップロボット(中谷こ)

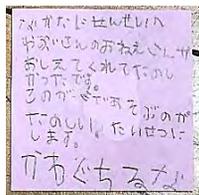
ドーンセンターでの「シングルマザーのためのはなみずきセミナー」で、「親子で楽しむ!工作教室」を開催しました。工作に内容はモーターで走る紙コップロボットです。人数が少なかったため一人ひとりにじっくり向き合うことができました。そして、子ども達の豊かな発想に触れることができました。ロボットの足(モーター)のビニールテープの巻き方を工夫して走行速度を挙げたり、モーターを4つ付けたらどうなるだろう?と試していたり、今まで見られなかった工夫も見る事ができました。子ども達は工作が得意で次々に進める子、ひとつひとつにこだわりゆっくり進める子、講師の話の聴いて手順通りに進める子など、いろんな子が居ました。CYTやMCでは、周りのペースに合わせてということは言わず、自分ペースでやりたいように進めてもらうことを尊重し、全員が自分のペースで作り終えることができました。

11月 未就学児向け出前工作(武山)

キラキラ☆リトミック音楽教室の未就学児対象の工作会を開催しました。内容はモーターを用いた簡単な工作ですが、その中にも、試行錯誤の過程を取り入れ、子ども達は個性豊かな作品を作りました。

12月28,29日 ♪の森の音楽会「ブレッドボード電気工作教室」

MCとの共催で、大阪府交野市の「♪の森の音楽教室」の生徒さんと保護者約30名に「ブレッドボードを使った5電気回路5音オルガンの製作」の工作教室を実施しました。工作の終わりには、参加者から歌と演奏のプレゼントがありました!工作の後は昼食を食べながら理工系学生の日常やものづくりのことなどを参加者と語り合いました。今回の工作は回路が難しいため、参加者全員が完成させることができるか不安でしたが、子ども達の理解はとても早く、無事に全員完成させることができました。工作を教えながら会話も弾み、すごく楽しい機会になりました。



チーム名「CYT」は、「Craft Youth Team」の略称です。この「CYT」という言葉は、SNS界隈では、「See You Tomorrow(また明日会おう)」を意味します。CYTは、男女混成、学生・社会人混成、そして、年齢の幅も広い点が、次世代の新しい社会でのキャリアデザイン力育成のモデルです。MCはこれからも、匠サロンはじめ、技術者や企業、地方自治体や団体の方々のお借りしながら、共に彼らをはじめとする次世代に対して、様々な枠組みを超えて自由に活動できる場を提供していく使命を果たしていく決意を新たにしています。